

令和2年度手づくり郷土賞選定案件概要

大河石狩川に並ぶ、日本一の直線国道
～日本一の直線が紡ぐ地域の繋がりと次世代への思い～

1 社会資本の概要

国道12号は、札幌市を起点に道北の中核都市である旭川市に至る約145kmの幹線道路であり、道央圏と道北圏を結ぶ重要な路線です。

この道路は、北海道開拓と同時に設置された樺戸集治監の囚人により建設され、当時の工事の復命書には「成可(なるべく)直線路に為すを主とし」と記載されたことから、意図した直線路として誕生しました。

平成2年に改修工事を経て、滝川市、砂川市、奈井江町、美瑛市の3市1町に跨る日本一長い29.2kmの直線区間を有する国道となりました。

また、全国2位の流域面積を誇る石狩川は、国道12号と平行して北海道西部の平野を縦断する大河であり、泥炭地の改良により広大な稲作地域を潤しています。



日本一の直線道路



日本一の直線道路となるまでの沿革が、起点と終点のモニュメントにあります



2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

この地域は、国内有数の産炭地として北海道開拓や日本の近代化を支えてきましたが、エネルギー政策の転換により、1990年代には全ての炭鉱が閉山し、他の地域よりも先に人口減少を経験しました。徐々に活力を失いつつある地域の活性化と就学や就職をきっかけに地元を離れる子供たちが「いつかまた帰る場所」として、いつまでも思い続けられる郷土づくりを目指し奈井江町の町花を国道に植栽したのがこの取組のはじまりです。

当初はボランティア活動が中心でしたが、NPO法人化に合わせて公共施設の指定管理事業の受託へと広がり、直線道路の中間地点にある「道の駅ハウスアルビ奈井江」を拠点とした、習字教室の開催や夏休みのラジオ体操、自転車交通安全教室など地元住民や道路利用者から求められるものとなっています。



直線道路の中間地点にある「道の駅ハウスアルビ奈井江」



町の花「ヘメロカリス」の植栽の様子



道の駅施設内に再現した大正時代の古民家

北海道 奈井江町
特定非営利活動法人 日本一直線道まちづくり研究会

3 活動の成果や波及効果等

地域の愛着を深める取組として、団体発足当初から17年間継続している国道の美化清掃活動は、サポーターとなっている地域の高齢者たちが中心となりコミュニティをつくり次世代を担う子供たちと一緒に活動を進めています。

人口減少や高齢化の進行など、地域が抱える課題の解決に向け、沿線の3市1町のみならず活動に賛同する多くの支援を受けながら、時世にあった取組を次々と展開させる姿勢は、まさに広域での連携の効果の証左と言えます。



国道12号の歩道の美化清掃活動の様子



用水路へのハーブの植栽の様子



習字教室の様子



夏休みラジオ体操に集まる子供たち



自転車交通安全教室の様子



スポーツ教室開催の様子

喜びの声



受賞者名 (特定非営利活動法人 日本一直線道まちづくり研究会 理事長 工藤克彦)

コメント

このたびの国土交通大臣表彰に際しまして、格別のご愛顧を賜り厚くお礼を申し上げます。

今回の栄誉を授けられましたのも、活動に賛同していただいた多くの皆様方のご支援とご協力のおかげと存じ、深く感謝しております。子供達が自慢できる郷土を目指し、続けてきた活動を評価していただき、私どもの大きな自信になりました。

今後も、地域の皆様と一緒に次世代に繋ぐ活動を盛り上げて行きたいと考えております。

活動の内容

- ・ 国道のVSP活動としての歩道の美化清掃
- ・ クリーンファームとして、基盤産業である水田へハーブの植栽や、田植え稲刈り体験などを実施
- ・ 「道の駅ハウスアルビ奈井江」の施設を利用した習字教室の開催
- ・ 「道の駅ハウスアルビ奈井江」にて、夏休みラジオ体操、自転車交通安全教室の開催
- ・ 町施設を利用し、幅広い年齢層に向けたスポーツ教室の開催

活動の経歴

平成15年 日本一直線道まちづくり研究会設立
以後、多種多様な活動を継続中

- 所在地：北海道空知郡奈井江町字奈井江748番地118
- 活動主体及び連絡先：特定非営利活動法人 日本一直線道まちづくり研究会 (0125-65-5722)
- 社会資本：一般国道12号・一級河川石狩川
※管理者：国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部